

ウンシュウミカン果実におけるかすり状被害とチャノキイロアザミウマの関係性

利用対象：東紀州地域でウンシュウミカンを栽培する生産者



図1 6月頃から現れる本被害

東紀州地域のウンシュウミカン果実で、果頂部や側面に6月下旬から7月にかすり状の障害(図1)が見られます。この症状は殺虫剤や殺菌剤を通常通り行っても発生し、原因は不明です。

そこで、この症状とチャノキイロアザミウマについて調査したところ、両者の間に関係性が見られました。

表1 チャノキイロアザミウマの数と被害の発生程度

	果実寄生数 (頭/100果、月平均)		被害果率	被害度	備考
	6月	7月(～7/18)			
	A園	79.6			
B園	1.5	37.2	66.7	22.6	粘着トラップ調査で6月捕殺数多い
C園	5.8	1.9	32.5	9.7	
D園	4.2	6.4	31.7	7.6	
E園	3.3	2.0	20.0	5.0	
F園	7.5	6.8	18.3	5.0	
G園	0.0	0.8	0.0	0.0	



図2 袋掛け実験の様子

熊野市～御浜町のウンシュウミカン園地の果実に寄生しているチャノキイロアザミウマの数を1週間ごとに調査しました。結果、チャノキイロアザミウマの数が多い園地では被害も多く発生していました。

表2 果実への袋掛け(虫の遮断)とチャノキイロアザミウマの放飼による被害の再現

処理区	処理		調査果数	被害程度別果数				被害果率(%)	被害度
	袋掛け	放飼		無	少	中	多		
6/6放飼	○	○	107	98	7	1	1	8.4	2.5
6/13放飼	○	○	111	99	7	1	4	10.8	5.1
袋かけのみ	○	×	71	71	0	0	0	0.0	0.0
無処理	×	×	160	24	51	48	37	85.0	43.4

チャノキイロアザミウマとの関係性を調べる実験のために、5/23～7/23まで果実に袋掛けを行い、虫が入らないようにしたところ被害は発生しませんでした。袋の中にチャノキイロアザミウマを放飼すると被害が再現できました。

注
意

- ・本被害の多発地帯では慣行の防除では十分な防除効果が得られず、有効な防除方法については現在検討中です。
- ・本症状に関して、チャノキイロアザミウマ以外との関連は調査していません。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 紀南果樹研究課 小林孝徳、須崎徳高	電話 05979-2-0008
	中央農業改良普及センター 西川豊	電話 0598-42-6707
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	